

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・本校の強みである校内研究は、「生徒が主体的・協動的に取り組める道徳授業づくり」をテーマに、「学び合い活動」の手法を大いに取り入れ、全ての職員による授業実践と授業公開ができた。</p> <p>・この研究を通して、各教科・領域でも「主体的対話的な深い学び」に向けた指導法改善が積極的に行われており、学力向上に成果を上げている。</p>	<p>・一方で昨年度、本校生徒による賤称語発言があり、学校全体で人権意識についての検証・研修に取り組んだ。「人権尊重の視点に立った学校づくり」に向け、年間指導計画を作り、各教科・領域はもとより教育活動全体を通じて人権・同和教育に取り組んでいる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休業に対し、自宅待機生徒への学習保障のための環境整備を目指す。</p>
----------------------	---	--

心豊かにたくましく生きる生徒の育成
～自ら考え、適切に判断し行動する中学校生活を通して～

- 3 本年度の重点目標**
- ① **社会で活用できる（通用する）基礎・基本としての学力向上、**
 - ② **安心・安全を最優先した教育環境づくり、**
 - ③ **道徳教育の充実による豊かな心と社会性の育成、**
 - ④ **開発的な生徒指導の展開（「生徒指導の3機能」を基にして）、**
 - ⑤ **全教職員によるフォローシップと創意的な協動的な学校経営の展開（「働き方」改革へ）**

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析と課題解決のための洗い出し。 ・「上中授業スタイル」の共通実践 ①めあての提示、②見通し、③学び合い活動、④まとめ、⑤ふり返り ・学習規範の指導徹底 ①2分前着席、②元気に挨拶、③元気に返事、④注目傾聴 	A	「書く活動」の推進については、各教科でワークシートやグラフ、図などで表現することができた。また、ICTのスキルも日々向上している。上峰中授業スタイルについて、自己評価では「できている」17%、「大体できている」83%。生徒アンケートでは「できている」67%、「大体」29%。	A	・マイプランの成果指標①授業の中で、自分の考えを文章やグラフ、図などで表現することができた。は85.1%。②「臨時休業中のオンラインミーティングや課題は、家庭学習を充実させるのに役立った」は76.7%であった。学び合い活動が定着したこと、生徒が自分の考えを表現する機会が増え、肯定的な意見が多くなったと考えられる。	A	・各教科とも指導法改善が図られ、学び合いや発表する活動が多く取られていた。ICTの活用も当たり前に行われており、分かり易い授業に向けた授業準備を感じた。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・学年主任
	○臨時休業対応に備えた家庭学習や補充学習の充実を図る。	○生徒や保護者対象の学校評価(外部アンケート)で、「家庭学習の習慣が身につけている」の項目で、生徒90%以上、保護者80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習を意識した家庭学習の課題づくりの工夫研究。 ・生徒会図書委員会との連携による図書館利用の充実。 ・「すくすくテスト」や「学習クラスマッチ」、佐賀大学と連携した長期休業中の補充学習等の推進。 	B	・家庭学習の手立てや工夫の問では、「できている」33%、「大体」67%に対し、保護者アンケートでは、「あまりできていない」26%、「できていない」3%。生徒アンケートでも「あまりできていない」9%、「できていない」3%。認識の違いがみられた。	A	・家庭学習の手立てや工夫の問では、自己評価「できている」25%、「大体できている」70%に対し、保護者アンケートでは、「できている」45%、「大体できている」37%。生徒アンケートでも「できている」70%、「大体できている」23%となり、家庭学習の定着ができていた。	A	・毎日自主学習ノートをチェックされ、個の頑張りに応じた成果表を駆使し、子どものやる気を促していた。 ・課題が多い教科もあり配慮を要する生徒にはやや負担になる場合は軽重を付けてもよいと思った。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任 ・学年主任 ・生徒会担当
●心の教育	●「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目指した特別の教科「道徳」を通し校内研究の充実研究テーマ「生徒が主体的に考え、協動的に取り組む道徳科の工夫」	○「校内研究の成果と課題」における職員アンケートの自己評価(4段階)において、平均値3.5以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳全体計画と年間指導計画、教科との関連(別業)の提示 ・道徳科の7つの授業実践 ①価値に迫る発問の工夫、②多様な価値観に触れる学び合い活動の工夫、③深めた価値が残る板書、④評価の視点の提示、⑤TT授業、⑥年間3回の授業研究会、⑦教材及び授業のデータ管理 	A	・研究主任のリーダーシップのもと、毎週水曜日に道徳授業実践が確実に行われており、学年毎の指導法の研究が熱心である。	A	・研究主任のリーダーシップのもと、毎週水曜日に道徳授業実践が確実に行われており、講師を招聘して校内研究会が充実し学年毎の指導法の研究が熱心である。	A	・道徳の研究は素晴らしく、先生方が練りに練った授業実践が行われていた。 ・子どもたちの生き生きとした表情が印象的である。学び合いをとおして互いに議論し、自分の考えをしっかりと伝えあっていた。 ・板書も工夫があり、振り返りもできるようにされていた。 ・廊下に掲示されている子どもたちの感想には感心するものもたくさんあった。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任 ・学年主任
	●◎人権尊重の視点に立った学校づくりを目指す。 ・いじめ防止対策 ・人権・同和教育 ・開発的な生徒指導	○生徒や保護者対象の学校評価(外部アンケート)で、「いじめに関する項目」で、生徒、保護者95%以上を目指す。 ○生徒会活動において、生徒の参画意識80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や特別活動において計画的に教材化を図る。 ・教育相談部とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にする。 ・インターネット上のいじめに対応するために情報モラルの教育を計画的に行い、いじめ防止に努める。 ・生徒会を主体的に活動させた開発的な生徒指導の具体的な取組を示す。 	A	・道徳の時間を要し人権教育が熱心に行われている。異が作成した「シンちゃん、ケンちゃん」のDVDを活用し、校内研修会を開催した。人権同和教育室から指導主事を招聘し、指導方法の研究が行われた。	A	・道徳の時間を要し人権教育が熱心に行われている。異が作成した「シンちゃん、ケンちゃん」のDVDを活用し、校内研修会を開催した。人権同和教育室から指導主事を招聘し、指導方法の研究が行われた。	A	・自己肯定感が高い生徒が多くなると思う。 ・やや学年に差が感じられる人権意識もあるが、道徳を通じて高めていきたい。 ・オンラインを通じた人権集会は生徒会が主導する効果的で素晴らしいものであった。 ・いじめが6件あるが、積極的に認知した件数であり、見逃しのないよう今後も努めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導担当 ・人権同和教育担当 ・生徒会担当
●健康・体づくり	●安全教育の徹底と危機回避能力の育成 ・生活事故、交通事故の防止対策 ・自然災害等の防災教育	●児童生徒の生活事故や交通事故発生時の現場検証を徹底し、再発ゼロを目指す。 ●危機事象が発生したときの緊急連絡・報告の徹底(ノームス)を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活事故や交通事故における現場における事故検証を行い、職員へ注意喚起する。 ・交通安全や防犯教室、避難訓練の実施、各施設の安全管理点検及び補修。 ・学校内外の危険箇所マップの活用、緊急メールによる情報の速やかな発信。 ・立ち番指導による生徒の登下校時の安全確保を行う。 	A	・交通安全教室、火災避難訓練、交通立ち番指導を実施し、安全・防災教育のスキルアップや意識向上ができた。また、大雨や台風、大雪、新型コロナウイルス感染症予防など、マチコメールを積極的に活用し危機管理対策を講じることができた。	A	・生徒の健康・安全教育について、感染症予防や交通・生活事故防止に向けた指導や対応ができていた。質問項目は、自己評価において、「できている」68%、「大体できている」32%。生徒アンケートでは、「できている」79%、「大体できている」21%。保護者アンケートでは、「できている」53%、「大体できている」47%とすべての領域で高評価を得た。今後も感染症対策や交通事故、生活事故防止に努めていく指導している。	A	・新型コロナ予防対策について、細心の注意が払われており、感染者が出てしまっても目頭からの対策が講じて、検査者や学級閉鎖がなかったことは評価できる。 ・交通事故においては、大事故はなかったが接触事故が数件あり、今後も交通安全やマナーについての指導を充実していきたい。 ・来年度は交通安全、防犯教室などが体験的にできるよう願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職 ・安全教育担当 ・生徒指導担当
	○新型コロナ感染予防に向けた共通実践	○本校生徒及び職員から感染者を一人も出さない。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防策を通知やマチコミで注意喚起を促し、オンラインでの学習や健康促進に向けた過ごし方を情報発信する。 	A	・感染症予防の指導充実度では、自己評価「できている」55%、「大体」45%。気を付けた行動をとっているかの生徒アンケートでは、「できている」79%、「大体」20%。保護者アンケートでは、「できている」46%、「大体」47%、「あまりできていない」6%であった。	A	・新型コロナ感染者を1名出したが、学校内での対策が整ったことで検査者はなし。学級閉鎖等も必要なかった。感染者へのフォローも健康観察や学習保障をオンラインで行うことにより精神的にも安心させることができた。登校時には人権教育の視点に立って生徒会主導で感染者理解に努めた。	A	・今後も新型コロナ感染者の収束が見込めない中で、油断なく予防対策を講じてもらいたい。特に部活動の遠征や大会等、接触する機会が多い競技などは大会参加の留意点を順守し、参加していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職 ・養護教諭 ・保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時間をデータ管理し、時間外勤務状況を職員へ知らせ、時間外超過の職員に対し、学年や校務分掌の偏りをなくせるようフォローシップ機能を図る。 	C	・部活動や教材研究が理由で時間外超過が課題であり、月45時間内が守られていない職員が1/3存在する。自己評価でもタイムマネジメントやワークライフバランスの問いについて、「あまりできていない」24%と高い。	B	・11月からの後期においては、超過勤務者が減り、19時までの退勤が守られるようになった。	B	・学校における業務改善が少しでも進むように管理職と各分掌とが連絡調整を図り、学校行事の時間的削減を図っていただきたい。 ・成績2期制は業務改善に効果があった。今後も効果的・効率的な精選を図っていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職 ・教務主任
	○新型コロナ感染予防のための在宅勤務を推奨し、業務の効率化を図る	○業務計画や事前指導を徹底し、臨時休業における積み残しを最小限に抑える。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会、学年主任会等、ミドルリーダーとの打ち合わせを小まめに図り、よりよいアイデアや実践力に繋がるようチーム力を高める。 	A	・5月14日で臨時休業は解除し、その後は学校行事の制限はあったものの日常に戻っている。町を挙げてオンライン授業体制の構築が図られているので、今後の臨時休業体制下では対応できる準備はある。	A	・5月14日で臨時休業は解除し、その後は学校行事の制限はあったものの日常に戻っている。町を挙げてオンライン授業体制の構築が図られているので、今後の臨時休業体制下では対応できる準備はある。	A	・新型コロナ感染症が学校現場に与えた影響は大きい。裏を返せば、働き方改革を進める機会となった。 ・オンラインの意義はもっと広められるはず。積極的に進めていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職 ・教務主任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者		
				進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果		評価	意見や提言
◎新型コロナ感染予防における臨時休業中の学習保障を目指す	○町教委と小学校との連携でオンラインミーティングの体制づくり	○すべての生徒にオンライン体制の整備を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMIにおけるオンライン環境の整備。 ・各家庭のオンライン環境をアンケートで把握し、不足のないよう教育委員会とインシアチブをとる。 ・配信内容の工夫・研究に努め、学習保障の手立てを講じる。 	A	・臨時休業における授業時数不足は教育課程の再編成を行うことで、各学年・各教科において取り戻すことができた。	A	・臨時休業における授業時数不足は教育課程の再編成を行うことで、各学年・各教科において取り戻すことができた。	A	・新型コロナ感染症がもたらした教育活動の振り返りは、不易と流行を考えると、この1年で「何が大切な行事か?」「どうすれば実行できるか?」が見通すことができ、意義深い1年になったのでは?来年度もこの経験を生かして更なる高みを目指していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任 ・教育情報推進リーダー ・学年主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<p>・新型コロナ感染症対策を通じて、日々の危機管理の重要性を学べたことは大きかった。「油断大敵」は生徒はもちろん職員も同様、危機管理上の示唆を与えてくれた。同時に「働き方改革」を進めるにふさわしい1年になった。</p> <p>・道徳教育の推進校として、職員が一人丸となったお陰で教育目標である「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」に貢献できた。今後も道徳教育を要し教科横断的に指導方法改善を図り、新学習指導要領実施に向けた「主体的、対話的な深い学び」や「指導と評価の一体化」に向け、さらに職員研修を仕組み、高みを目指したい。また、一人1台端末のギガスクール構想も推進していきたい。</p> <p>・目指す生徒像に「高い志をもつ生徒」を加入した。夢や目標を掲げる大切さ、困難を乗り越える達成感、誇り高い生き方など、道徳教育や特別活動(学級活動や生徒会活動)を積極的に取り入れていきたい。</p>									